1971年4月23日　第三種郵便物認可　2025年8月1日（毎月1日発行）718号　ISSN　0388-4163

障害者の権利を守り、発達を保障するために

みんなのねがい

8
2025
No.718

特集　戦後80年～知る、学ぶ、つなぐ
戦争と平和を自分の言葉で語るために

連載　心に種をまく　安田菜津紀

全国障害者問題研究会

みんなのねがい

2025年8月号
No.718

1　人として　吉田照男
2　【インタビュー】いま語りたい 心の窓を広げて　松林紗希
4　教員のはじめの一歩　木澤愛子
6　心に種をまく　安田菜津紀
7　あなたに届けたいこの一冊　越川裕美
8　この子と歩む　稲見綾子
11　進め！ 推し活道　瀧口茂人

特集　戦後80年 ～知る、学ぶ、つなぐ

13　平和の街　三枝信也
14　悲しみを忘れないで　松田春廣／土佐和史
16　戦争と平和を自分の言葉で語るために　本誌編集部
20　戦争の記憶を語り継ぐ　沢村智恵子
22　自分らしく生きる　辻 和美

24　私ときょうだい　井上健太郎
26　子どものミカタ　塩田奈津
28　ソーシャルワークってなんだろう？　木全和巳
32　シリーズ 18歳　小林 瑞
34　暮らしの場は今　加藤佳帆
36　実践にいかす障害と医療　安藤佳珠子
38　ニュースナビ　改正育児･介護休業法　工藤さほ
40　実践の魅力　西尾 栞
43　全障研の支部ニュース、紹介します　松島恵美子
44　みんなのひろば
46　息子と歩く　千葉桜 洋
47　BOOK ／編集後記
裏表紙　おいしいひととき　西岡美紀

デザイン・イラスト
うじたなおき、勝倉大和、ちばかおり
永野徹子、日本印刷、橋野桃子、山内若菜

表紙のことば

青森県各地で８月に開催されるねぶた祭り。20年ほど前に友人に連れられてから、その魅力の虜になり毎年津軽の地へ出向いている。青森の冬は長く厳しい。春が訪れ、梅雨が明け、祭りの夏がやってくる。青森の人はこの季節を心待ちにしている。祭りの期間は皆、心も身体も跳ねて躍動する。

運行が始まる夕暮れ時には、青森市のシンボルであるアスパム前の公園にハネトの衣装を来た若者たちが集まってくる。僕はここで祭りの始まりを待つ彼女たちを撮るのが好きだ。

待ち侘びた夏。夢のような時間。夕陽に照らされたその表情は一年でいちばんキラキラと輝いているに違いない。

そう、僕はこの笑顔を見るために青森へと向かうのだ。

表紙=土佐和史
とさ　かずふみ／写真家。1977年大阪府生まれ。全国各地に出向き、旅ゆく道で出会ったひとや風景を撮り続け作品発表を行っている。2018年に写真集出版レーベルBUFFALO PRESSを立ち上げる。写真集に、「SUNLIGHT MEMORIES」（CITYRAT press）「北関東」「路地裏に咲いた花」（いずれもBUFFALO PRESS）がある。

教員のはじめの一歩

第５回
私のはじめの一歩

全障研滋賀支部
木澤愛子
きざわ　あいこ／特別支援学校教員。1992年より肢体不自由特別支援学校で14年間、その後は知肢並置校で主に重度重複クラスや医療的ケアが必要な子どもたちのクラスを担任

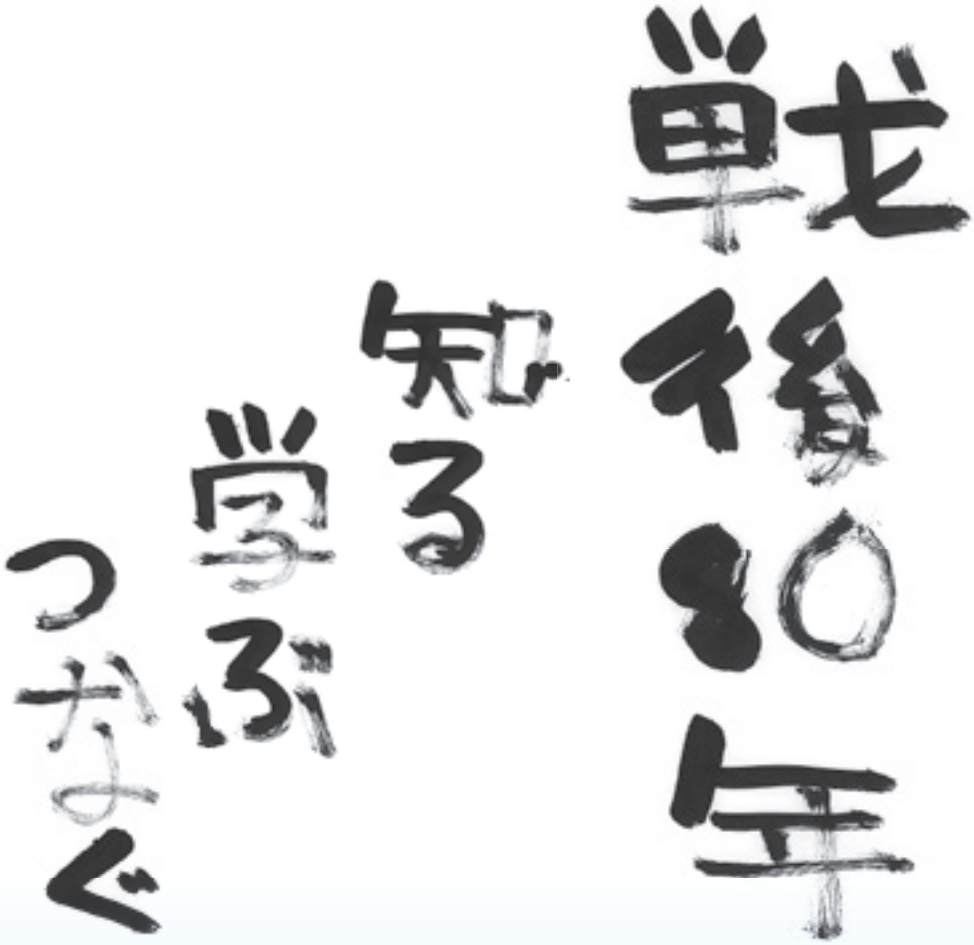
大学を卒業してすぐ教員になり、34年。ほとんど、重度重複クラスの担任をしてきました。私が教員になった頃のことを思い出してみました。

大学ではあまり勉強せずに教員になり、しかも重度重複クラスの担任に。もう、わからないことだらけ…。「向いていないな」「もうやめようかな」と何度も思いました。唯一？　よだれやおしっこなどがちっとも苦にならないので、子どもの身の周りのお世話は一生懸命しました。一生懸命お世話する中で、どんな障害の重い子どもでも、なんかうれしそう、気持ちよさそう、苦しそう、いやそうなどが感じられるようになりました。でも、それだけでは足りないと思うのも事実で、教師として大事なことができていないということに苦しんでいたのです。実は今でもやっぱり向いてないな、やめようかなと時々思います。でも、こんなに長く続けているのはどうしてでしょう？

先輩に教わりながら

初めて勤務したのは全校児童数１００名足らずのこぢんまりとした学校。同じクラスには10歳年上の頼りになる女性の

イラスト　勝倉大和



2025 年、戦後 80 年の節目を迎えようとしています。
障害のある人と戦争は、密接な関係にあります。
戦闘で手足を失い身体障害者となった人、過酷な戦地の環境により精神疾患を患った人、技療手（マッサージ師）や防空監視員として動員された視覚障害者たち。また、徴兵検査で兵役に適さないとされ、「非国民」「穀潰し」と蔑まれた肢体不自由のある人たち、ナチスドイツでは T4 作戦という障害者の大量殺害も実行されました。
戦争は障害者を作り出し、差別を強めてきました。

戦後 80 年が経ち、戦争の悲惨さや、戦争が生み出す苦しみを知る人びとの語りを聴ける機会がどんどん減ってきています。記憶や記録の継承が、よりいっそう重要な意味をもっています。
戦争の記憶を受け継ぐことは、戦争を一人ひとりにとって「自分ごと」にすること、平和へのねがいを大きくしていくことです。
特集を通して、読者のみなさんと一緒に、平和をつなぐ歩みを進めたいと思います。

題字　島田伊織

悲しみを忘れないで

写真　土佐和史／文　本誌編集部

心地良い風の吹く5月のある日、武蔵野に住む松田春廣さんのもとを訪れた。松田さんは１９２５年（大正14年）東京生まれ。生後すぐに高熱が続き、脳性まひとなった。

１９４４年、20歳の時に徴兵検査を受けた。結果は丁種（兵役に適さず）。戦争の役に立たない非国民、穀潰しと蔑まれた。「国はなぜ障害のある私にそのようなことをするのか」計り知れない怒りと悲しみを覚えた。空襲警報が鳴ると、真っ暗な防空壕の中で、いつ爆撃されるかわからない恐怖におののいた。空襲は日増しに激しくなり、母の実家に疎開するも、近所の人や子どもたちが「障害者」の自分を見に来ては笑いものにされた。松田さんは、「当時のことを思い出すと悲しい気持ちでいっぱいになる。たくさんの人が嫌な思いをし、苦労をし、悲しみに暮れた。この悲しみを忘れてはならない」と話す。

松田さんのおだやかな笑顔の奥には深い悲しみが刻まれている。そしてその悲しみは平和を願う核心になっているように感じられる。帰り際、松田さんと握手をした。１００年の時を生きたその手は、やわらかく、やさしかった。

戦争と平和を自分の言葉で語るために

――東京大空襲・戦災資料センター訪問記

写真・文　本誌編集部

戦争で何が起こったのか、私たちはどうして平和を求めるのか―そんなことを知りたくて、考えたくて、東京都江東区にある博物館「東京大空襲・戦災資料センター」を、障害のある青年たちと一緒に訪問しました。

空襲って知ってる？

2025年5月25日、江東区にある放課後活動の場「まつぼっくり子ども教室」で待っていてくれたのは5人の高校生たち。みんな都内の特別支援学校に通い、小さい頃からまつぼっくりで活動をともにしてきた気心の知れたメンバーです。

東京大空襲・戦災資料センターに行く前に、みんなに「戦争って聞いたらどんなことを思い浮かべる？」と聞いてみました。「銃や戦車を向けられて殺されたり、建物を破壊されたり、戦争って怖いイメージしかない」という声。そこで次は、「じゃあ空襲って聞いたことある？空襲って『空から襲われる』って書くよ」と聞いてみます。「もしかして現代だとウクライナのこと？」「最近だとガザもやばいよね」「誰かが犠牲にならないといけない…そう考えると悲しくなる」「なんのためにそういうひどいことをするのか理解に苦しむ。なにも悪いことをしていない人たちが犠牲になっていくことはおかしいとしか思えない」と次々に意見が出てきました。「そうだね。みんなが住んでいる東京でも空襲があったんだよ。今日はそのことが描かれた絵本があるから読んでみよう」と絵本『焼けあとのちかい』（半藤一利・文／塚本やすし・絵、大月書店）を読みました。

まつぼっくり子ども教室にて

絵本は作家の半藤一利さんの実体験が描かれたもので、舞台は墨田区。みんなの通う学校も近く、遠く離れたところの

第5回
青年たちの思いと言葉

この連載では、さまざまな実践者がそれぞれの実践を通して、子どもの発達や魅力について語ります。

京都　特別支援学校教員　**塩田奈津**

私が特別支援学校の高等部で担任してきたのは、発達段階が7歳～10歳頃を中心とした生徒たちです。9歳の質的転換期を迎えた子どもたちは、「自己客観視」の力を身につけ、身近な大人の手を離れて、仲間の中で「集団的自己※」を確立していきます。自分を客観的に見つめ、自身を変えていこうとする前向きな力を、私はいつもこの段階の青年たちから感じてきました。しかし同時に、自身の障害を認識し、差別的な周囲の視線を感じて、そのことによって立ち直れないのではないかと思うほど深く傷つき、悩んできた生徒たちとも多く出会ってきました。

◆自分と向き合い、語り綴ること

そんな生徒たちに私は、自分のことを物語る経験、自分のことを振り返って書く活動、そしてそれを仲間たちと共有する活動をとても大切に考えてきました。

次のような言葉は、高等部でのさまざまな実践の中で、それぞれ生徒たちが綴ったり、語ってくれたことです。

「中学生のとき、みんなが僕を障害者と見ている気がした。弱い自分を殺したかった」「先生、なんで私は障害者って言われるん？　なんでふつうの学校に行けへんの？　この先一生、障害者として生きていかなあかんなんて、そんなん嫌や！」「自分は自分やって思えることも増えたけど、なんで私だけこんな目に…って思う気持ちは今でも消えへんな」「負けそうなことはしたくない。みんなにばかにされるような気がする」。

こちらも息苦しくなるような深い傷つきが伝わってきて、その圧倒的な切迫感に思わずめまいがしそうな場面ばかりでした。でもこれらの言葉を伝えてくれた生徒たちは意外にも、厳しい時期をくぐり抜け、学校生活をとても生き生きと主体的に送っていた青年たちばかりなのです。逆に言えば、「これを言っても大丈夫」「何を言っても受けとめられる」と思える場所や関係性、そして「このことを認めても損なわれない自分自身」を見つけたからこそ話せる、心の奥深くにある思いだったのではないかと思います。

中学生のときの「弱い自分を殺したかった」と書いたリクトさんは、自分の高等部時代を「生まれ変わりの時代」と名付け、「自分のことを見てくれている仲間や先生ができた」「自分のことを見直すことができた」「毎日が真剣だった」と綴りました。

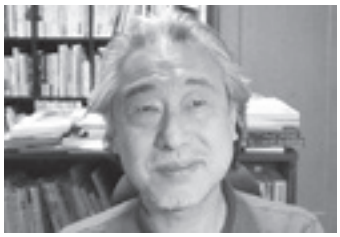
※楠凡之「7～9歳の発達と発達診断」白石正久・白石恵理子編『新版 教育と保育のための発達診断 下』2020年、全障研出版部

ソーシャルワークってなんだろう？

一度しかない生活を支え、人生に寄り添い、

かけがえのない生命を共に輝かせるために

第5回
ソーシャルワークと「人間の権理（ヒューマン・ライツ）」



日本福祉大学
木全和巳

きまた　かずみ／日本福祉大学社会福祉学部。児童養護施設、知的障害児施設等を経て現職。研究テーマはソーシャルワーク、セクシュアリティ、権利保障など。著書に『〈しょうがい〉と〈セクシュアリティ〉の相談と支援』（クリエイツかもがわ）など

卒業生に贈ることば

「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権理（けんり）とについて平等である」。世界人権宣言の第1条です。詩人の谷川俊太郎さんは、「わたしたちはみな、生まれながらにして自由です。ひとりひとりがかけがえのない人間であり、その値打ちも同じです」と、やさしいことばで表現しています。この理念が実現する時まで、毎年、同じことばを卒業生のみなさんに贈り続けます。「理念の実現に向けて共にあゆみ続けることを願います」と。

日本福祉大学でソーシャルワーク実践の教育と研究を行うようになって20年以上、毎年懲りもせず、同じ言葉を卒業生のみなさんに送り続けています。「社会正義、人間の権理、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす」とグローバル定義にも書かれています。この理念はそう簡単には世界において実現することはないので、毎年、贈る言葉を考えなくても良いという便利さはあります。そうではなく、私は心から、世界中の人たちがこの理念を学び合いながら、納得して「承認」してほしいと願っています。

第1条は、こう続きます。「人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」と。「理性」って何でしょうか。「良心」ってどういう心でしょうか。そして、「同胞の精神」で「行動」するとはどのようなことなのでしょうか。暗記して脳裏に焼きついて

いるこの第1条。時々、思い返すたびに、私の中でこうした問いが繰り返されます。

彼らに人権を渡して良いのか？

この第1条を特段に意識するようになったのは、２０１６年7月26日に起きた相模原障害者施設殺傷事件の植松聖死刑囚（以下植松）の言葉を知ってからです。獄中で書かれた植松の手紙の中に、こんな一文を見つけました。第1条を引用した後で、「……世界には〝理性と良心〟とを授けられていない人間がいます。彼らに人権を渡して良いのでしょうか？人の心を失っている人間を私は心失者と呼びます」と。「心失者」とは、別のところで、「私の考える『意思疎通がとれる』とは、正確に自己紹介（名前・年齢・住所）を示すことです」と書いていました。事件の際、植松は入居者に声をかけつつ返事がない入居者らを狙って次々と刺していきました。

植松に拘束された施設職員は、利用者の女性が就寝していた部屋に連れ込まれ、「こいつは話せるか」と聞かれます。職員が、その女性は自発的に話すことが困難で、「しゃべれない」と答えると、その女性の首付近を3回刺します。職員は「しゃべれない人を狙っている」と気づき、その後は、各部屋に連れ回されて問われる度に「しゃべれます」と答え続けます。ところが、「しゃべれます」と答えても、植松は「しゃべれないじゃん」と刺すようになります。職員が「みんなしゃべれます」と泣き叫ぶと、「面倒なやつだ」と言い、その職員を廊下の手すりに縛りつけて去ったのです。

「彼らに人権を渡して良いのか？」というのは、植松ならではの「歪んだリクツ」ですね。そもそも「人間の権理」「基本的人権」というものは、「誰もが生まれながらにしてもっているもの」と理解しようとするのが近代市民社会の原理原則です。「誰も」には「例外」はありません、と私は信じ、思っています。由来は近代の自然法思想という思想です。植松はこの思想を信じていません。現代の世界は、近代のデモクラシーの基本的な考え方が壊れていく「危機」の時代と言われるようになりました。「そんなものはない」という言説があちこちで堂々と主張されているのが現代の世界と社会です。

「基本的人権」の根拠　存在の「奇跡」

私は、豊田市の子どもの権利擁護委員（オンブズパーソン）として8年間活動をしてきました。この間、市内の小学校、中学校などで、子どもの権利の学習を子どもたちと続けてきました。「人権って何？」「なんで大切？」「子どもの権利ってどういうもの？」という問いにどう応答しつつ、学び合えるのか？　この時に、この「人権」について子どもたちにどう伝え、学び合ったらこうした思想が一人ひとりのからだとこころに刻まれ、わがものとして日常生活の中で生きて働くちからになるのか、試行錯誤の実践を続けてきました。

根拠は？　と問われた時に、いちばんはじめに浮かんだのは「この世の中に自分と同じ人間はいない」ということです。「個別性の原理」とも言われます。小学校3年生の教室で学び合いをした時のことです。ある男の子が「いるよ」と

精神障害の理解と支援⑤
「あなたならどう考え、どう行動するか」に向き合う

日本福祉大学
安藤佳珠子
あんどう　かずこ／専門は社会福祉学。ひきこもりやその家族の活動を支援。精神科病院等でソーシャルワーカーとして勤め、現在は日本福祉大学の社会福祉学部社会福祉学科講師。論文「不登校経験があるひきこもりの若者の葛藤する機会を保障するソーシャルワーク：発達集団が生み出す関係性のなかでの自立」等。

6月号で、当事者との関係で支援者は、実は当事者の感情を感じ取っている場合があることを説明しました。その際、「投影同一化」という概念を取りあげました。今回はその続きで、感じ取った感情を使って支援に展開する方法について考えていきます。

居場所が見つからない真由子さん

真由子さんは40代の女性で、現在グループホーム（以下、GH）に入居しています。発達障害と統合失調症の診断を受けています。幼少期から言葉の発達に遅れがあり、療育に通っていましたが、普通級で高校まで進学しました。しかし高校在学中に通学が困難となり中退しました。その後アルバイトを始めましたが、精神的に不安定となり精神科に入院になりました。真由子さんはお母さんへの強い依存があり、母親との同居を望んでいました。しかし、母は施設入所となり、真由子さんはGHに入居することになりました。

退院後は働くことを希望していたため、相談支援事業所とつながり、複数の作業所への通所を試しました。しかし、精神的に不安定になったり、身体的不調を訴えトイレや風呂などに長時間こもることも頻発し、通所が安定せず退所を繰り返しています。また、入居者や職員との関係に対する不満も多く、GHも転々としている状況です。

現在はたまに散歩もしますが、GHで一日の大半を過ごしています。トイレや風呂などにこもる行動は減り、比較的穏やかに過ごしていますが、GHに対する不満は続いています。相談支援事業所には、時々真由子さんから電話が入り、GHへの不満や今後の生活の見通しについて話されています。必要に応じて、主治医も含めたカンファレンスを開催し、真由子さんが安心して暮らせる環境について考え、本人との確認も行っています。

真由子さんが安心できる場所とは？

真由子さんは幼少期から言葉の発達に遅れが見られ、他者との関係を築くのがむずかしかったことが考えられます。また、母親への強い依存も、他者との安定した関係を築くことのむずかしさに起因しているとも考えられます。GHや通所先を転々とする行動は、特定の場所や人間関係に安定して留まることができない真由子さんの内面の表れと見ることもで

みんなのねがい 2025. 8 No.718
二〇二五年八月一日発行（毎月一日発行） 一九七七年四月三日 第三種郵便物認可 東京都新宿区山吹町四―七 新宿山吹町ビル五階 全障研出版部
定価715円（本体650円・税65円）

おいしいひととき

笑顔になるように

大阪　西岡美紀

ハピバールはカフェを併設した事業所です。おすすめは、スパイスをいくつも加え牛すじ肉がとろっとなるまでじっくり煮込んだ、ピリッと辛いカレー。仕込みを始めるとハピバール全体にスパイスのいい香りが漂います。いい匂いやなぁ、おなかがすくな、今日はカレーが食べたいな…仲間も職員もついついキッチンに引き寄せられます。

食器はハピバールで作っている陶器で、なかまの描くイラストがかわいいと評判です。

地域のひとたちの憩いの場所になれるように、今日もなかまたちは元気にお客さまをお迎えします。

ぜひお立ち寄りください！

CAFÉ HAPPIBAR

雑誌 08441-08
4910084410854
00650